

拭き取るだけで簡単に、試料採取！



拭き取り検査用

ふきふきチェックⅡ



拭き取り検査用〈伸張式綿棒〉

ふきふきチェックⅢ



ふきふきチェックⅡ・Ⅲの特徴

- 滅菌された希釈液が10mL分注されていますので、滅菌希釈液を作る手間がいらしません。
- 拭き取り部は、キャップ一体型の綿棒（綿球：10φ）ですので、より拭き取りやすくなりました。
- 本体ボトル部には綿球の絞り機構がついていますので、余剰な希釈液が絞り取れ効率的な拭き取り作業ができます。また綿球に採取された試料を効率よく回収できます。
- キャップのフタを開けると、真ん中にあるノズル部から拭き取った試料が、一定量滴下できる機構（1目盛り=1mL）になっていますので、ピペットやスポイトなどで移し加える必要がなく、直接試料液として供することができます。

①の目盛り線に
あわせて下さい

分注
機能付き

栄研化学株式会社

ふきふきチェックⅡ・Ⅲの使用法

1 容器のラベルに試料名などの必要事項を記入します。

2 キャップをはずし、ボトルの絞り部で綿球を指で軽く圧迫し、余分な希釈液を絞り取ります。

3 綿球で試料表面の一定面積（通常100cm²）を拭き取ります。（左下例参照）

2 キャップをはずし、ボトルの絞り部で綿球を指で軽く圧迫し、余分な希釈液を絞り取ります。綿棒を掴み、もう一方の手でキャップをもったまま綿棒を引き伸ばします。

3 綿球で試料表面の一定面積（通常100cm²）を拭き取ります。拭き取りが終わったら、綿棒を容器に指し込み、容器の外側から綿棒を掴んで、もう一方のキャップを持った手で押して、綿棒を短くしてからキャップを閉じます。

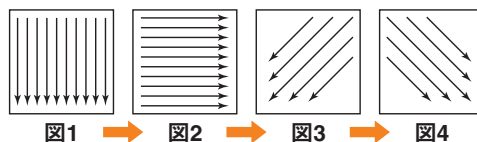
4 キャップを硬く閉めてボトルを数回振り子状に振り、均一な試料液として検査に供します。（ボトルは上下方向には振らないでください。）

ふきふきチェックⅡの使用法

ふきふきチェックⅢの使用法

例：平状面積（10cm×10cm）の拭き取り方法

- 綿球をタテ方向に直線的に10回程度拭き取る。（図1）
- 次に、綿球をヨコ方向に直線的に10回程度拭き取る。（図2）
- 更に、左下斜め方向に直線的に5回程度拭き取る。（図3）
- 最後に、右下斜め方向に直線的に5回程度拭き取る。（図4）



5 試料を滴下する際は、予め試料を捨てるための別容器を準備し、キャップのフタを開け（キャップのフタの開栓時には、滴下ノズルに指等が触れないように留意してください）、キャップを下にしてボトルを倒し、別容器に余分な試料液をすてて液面位置をⅡの場合は①、Ⅲの場合は②の目盛り線にあわせ、ボトル絞り部を圧迫しながら必要量を培地またはシャーレなどに滴下します。

製品名	包装単位	貯蔵方法	有効期間	製品コード	統一商品コード	規格・その他
ふきふきチェックⅡ	10本×40箱	室温	1年間	PF2002	026706191	本体材質:PE、21.9φ×93.6mm キャップ材質:PP 綿棒材質:軸PP、綿球レーヨン サイズ:10φ×87mm 内容物:リン酸緩衝生理食塩水 内容量:10mL γ線照射済み 分注機能付
ふきふきチェックⅢ	10本×40箱	室温	1年間	PF2030	026706207	本体材質:PE、21.9φ×93.6mm キャップ材質:PP 綿棒材質:軸PP、綿球レーヨン サイズ:10φ×87mm（通常時） 10φ×155mm（伸長時） 内容物:リン酸緩衝生理食塩水 内容量:10mL γ線照射済み 分注機能付

使用上の注意

- 液は飲まないでください。（誤って飲んでも、人体に影響はありません）また他の容器に移しかえたり捨てたり、こぼしたりしないでください。
- 試料採取後は菌数が変化しますので、ただちに検査に供してください。
- 絞り部で綿球をおさえたまま、キャップを引き抜かないでください。（綿棒がキャップから抜ける場合があります）
- キャップのフタの開栓時には、滴下ノズルに指等が触れないように留意してください。
- 綿棒への希釈液の含浸等の影響により、ボトル倒立時の液面位置は異なります。
- 使用後は速やかに廃棄してください。